

#### 第43回試験研究成果発表会プログラム

##### 酪農・肉牛部門

日時 平成18年1月19日(木) 10時～16時

場所 さんぶの森文化ホール(さんぶの森公園内)

山武郡山武町埴谷1904-5 (TEL 0475-80-9100)

##### 成果発表

10:20 発育促進による初産分娩月齢の早期化が分娩後の生産性に及ぼす影響

畜産総合研究センター 生産技術部 乳牛研究室 川嶋賢二

初産種付けまでの日増体量(DG)を高めて初産分娩を早期化させる場合、安全な分娩は可能であるが、1,000gを上回るDGは乳生産を低下させる可能性がある。

10:50 デンプンの反すう胃内分解性の違いが黒毛和種去勢牛の産肉性に及ぼす影響

畜産総合研究センター 生産技術部 肉牛研究室 有路優子

トウモロコシと大麦の加熱処理と非加熱処理との違いによる産肉性について検討したところ、枝肉成績に差はなかったものの、加熱穀類給与の方が飼料効率は高かった。

11:20 木質系資材を用いた家畜ふん尿の物性改良効果

畜産総合研究センター 生産環境部 環境保全研究室 大泉長治

木質系資材としてバーク、ウッドチップ、植繊材を用い乳牛ふん及び豚ふんを堆肥化する際の通気性が確保できる水分、仮比重等を調査した。

13:00 乳用種未経産牛を用いた受卵牛の効率的な発情排卵同期化

畜産総合研究センター 市原乳牛研究所 育成研究室 牛島仁

受卵牛を効率良く確保できないことがボトルネックになり、胚移植技術の利用は伸び悩んでいる。そこで、受胎性が高い未経産牛の発情同期化法を確立した。

##### 情報提供

13:30 MUN(乳中尿素態窒素)のバルク乳の現状と乳期別の変化について

畜産総合研究センター 嶺岡乳牛研究所 千葉耕司

県内酪農家の平成15,16年度のバルク乳及び個体乳MUN(乳中尿素態窒素)値について調査した。個体乳MUN値については乳期別の変化と乳量との関係を報告する。

14:00 飼料イネサイレージの給与が泌乳中期牛の乳生産に及ぼす影響

畜産総合研究センター 生産技術部 乳牛研究室 村上洋美

飼料イネサイレージによる粗飼料自給率向上を図るため、給与割合を2水準とした泌乳中期牛の乾物摂取量及び乳生産性等について検討した。

14:30 飼料イネサイレージの発酵品質と保存性の改善

畜産総合研究センター 生産環境部 飼料研究室 斉藤健一

ラップフィルムの巻き数の違いがサイレージの貯蔵性に及ぼす影響について検討を行った。また品質改善策として手作り乳酸菌添加剤の簡易作成法についても検討した。

**養鶏部門**

日 時 平成18年2月1日(水) 10時~13時30分

場 所 成田国際文化会館

成田市土屋303 (TEL 0476-23-1331)

成果発表

10:15 鶏ふんを用いたトマト茎葉残さの堆肥化処理とその肥料利用

畜産総合研究センター 生産環境部 環境保全研究室 石崎重信

トマト収穫後の茎葉残さを鶏ふんで被覆して堆肥化処理したところ、茎葉の分解と茎葉中植物病原菌の殺菌が促進され、ハウス栽培で肥料として循環利用可能な堆肥を調製することができた。

10:40 日本一の収穫量をほこるバカ貝残さの有効利用

畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 村野多可子

バカ貝の残さである貝殻と内臓を粉碎した乾燥ミールをカキ殻と魚粉に代用した結果、産卵諸性能、卵質成績とも良好な成績を示し、採卵鶏への応用が可能であることが判明した。

11:05 飼料原料の加工法の違いによる採卵鶏の排泄ふん量低減化の検討

畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 徳丸洋一

エキスパンダー加工した原料の10%飼料添加は、生産性に及ぼす影響もなく、排泄ふん量が減少する。

11:30 初生ひなにおけるサルモネラ(Salmonella Enteritidis: SE)の防除

畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 村野多可子

若齢ひなをSE感染から防御するには、ひなに移行抗体を持たせ、さらにそのひなの孵化直後にCE剤を投与する方法が効果的であると考えられる。

情報提供

12:50 農家の記帳から見えること

畜産総合研究センター 企画調整部 経営調査室 鈴木一好

ある採卵鶏農家で10年間記帳された技術・経営データを分析検討した。技術・経営の変化を明らかにしながら農家経営に役立つ情報を引き出す分析支援の重要性が示唆された。

### 13:10 採卵鶏の銘柄別性能比較試験

畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 青木大輔

県内で主に飼養されている採卵鶏8銘柄（ホリスプラウ、ゴトウもみじ、シェパード、マリア、デカルブ TX、バブロック、ジュリアイト、ジュリア）について、産卵諸性能、卵質成績などを調査した。

### 養豚部門

日 時 平成18年2月28日（火） 10時30分～13時30分

場 所 印旛農林振興センター

佐倉市鏑木仲田町8-1（TEL 043-483-1125）

### 成果発表

#### 10:45 初産分娩後の発情再帰日数からみた母豚の体重減少率と繁殖成績

畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 高橋圭二

初産で繁殖能力の高い豚は、2産目の種付けが難しくなりがちのため、初産分娩後のほ乳期間のどの時期にどんな点に注意するのが母豚にとって必要な管理なのかを検討した。

#### 11:05 豚 AI 用子宮角深部注入カテーテルを用いた豚胚の非外科的移植

畜産総合研究センター 生産技術部 生物工学研究室 中根崇

市販のフレキシブルな子宮角深部内人工授精用カテーテルを改良して、豚胚を非外科的に6頭の母豚に移植したところ、4頭が受胎し、平均産子数6.25頭、と良好な成績を得た。

### 情報提供

#### 11:25 豚人工授精センターにおける衛生管理実態調査

畜産総合研究センター 生産技術部 生物工学研究室 中根崇

豚精液を宅配等で広域に供給している民間施設27所、公設施設9所に対し、導入豚の衛生検査や精液中のウイルス検査等、衛生管理に関するアンケート調査を実施した。

#### 11:40 豚の品種別にみた肉質特性と物性の検討

畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 鈴木邦夫

品種別にロース芯の肉質を比較したところ、中ヨークシャー種は水分含量、クッキングロスが少なくせん断力が高い肉質特性を示し、物理的特性においても生肉では軟らかく、加熱肉では硬い傾向にあった。

#### 12:45 中ヨークシャー種の発育と肉質成績

畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 園原邦治

現行の飼料給与体系により中ヨークシャー種を肥育し、系統造成豚（L種）との比較を行うとともに、各肉質について食品成分である栄養素及び豚肉の食味検査を実施した。